



ドイツ・オランダツアー報告



2016/2/1(月)～2/7(日) 2

<2/2> [Edmund Bitter 「Shoes and More」] [ヘルツォーゲンアウラハ]

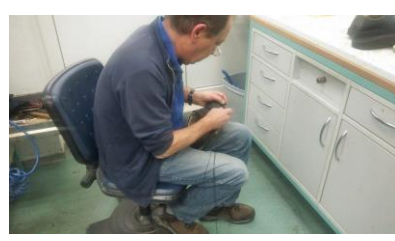
最初に訪問した小売店は、ヘルツォーゲンアウラハという本当に小さな街の靴屋さんでした。正直なところ、こんな場所で、小売店が成り立つのだろうか？と疑問に思うような場所です。しかも商品は、履き心地にこだわった一流の商品ばかりで、安売りは一切していません。でも、訪問中も平日にもかかわらず、ひっきりなしに来店客がありました。

この店が成り立っているわけは、見えないところにありました。

店の奥に、工房があり、4名のシューマイスターが、足の障害に合わせて、靴を加工しているところでした。足を診断する最先端の機械もあり、病院との連携で、お客様の足の状態にあった靴を提供していました。半径50km位の地域からお客様が来店されるということで、お客様は、店のスタッフに相談しながら、じっくりと靴選びをしていました。店に対する絶対の信頼があり、店は、その信頼にこたえられるだけの商品と技術が必要なことは、当然です。立地は関係なく、お客様に信頼されることがこの店の存在価値だと思います。



人通りもない、本当に田舎町です。



<2/3> [LEATHER MUSEUM] (ドイツ皮革博物館)[オッフエンバッハ]

ライン川を挟んで、フランクフルトの対岸の町、オッフエンバッハにあります。

オッフエンバッハは、人口123万人の町で、工業都市として発展し、特に皮革産業の中心地として知られている町です。

その町にある [LEATHER MUSEUM] (ドイツ皮革博物館) に行ってきました。

革と靴に関する珍しい品々が展示されています。昔の革をなめしている様子をジオラマで再現してあったり、古い道具や機械類も展示してあります。年代を追って靴の流行もわかりやすく展示してあり、自分の青春時代のころの靴を見ると懐かしく、「そういえばこんな靴履いたな～」

中にはこんな靴どうやって履いたんだろうと思うような靴もあり、靴の歴史を垣間見ることもできました。





ドイツ・オランダツアー報告



2016/2/1(月)～2/7(日)

3



<2/4> 【Durea 社】 [ドゥルーネン]

1948年 オランダ南部の町ドゥルーネンで創業した靴メーカーです。

ドレッシェでスタイリッシュなデザイン、しかも履き心地抜群の Durea の靴は、「この靴を履いてしまったら、もう他の靴は履けない。」とまで言わせるほど、ヨーロッパの女性には人気です。ラスト(木型)(靴を作るための型)は、甲の高さや幅で 4 種類のものを用意してあります。テリケートな足の感覚を重視し、より快適でおしゃれに履ける靴を作るよう日々努力しています。もちろんデザインばかりでなく、素材も吟味しており、特に底付の際の土踏まず部分のつり込みにはこだわりがありました。こういったこだわりが随所に見られ、これらが快適な履き心地につながるのだと思います。

私たち小売店は、このようなメーカーの情熱を、できるだけストレートにお客様にお伝えしなければならぬと改めて思いました。



<2/4> 【木靴工場】 [ドュッセン]

オランダと言えば、チューリップと風車と木靴ですね。靴屋の我々は、当然「木靴工場」でしょ! ということで、行ってきました。

ドュッセンという町にある、今となっては数少ない木靴メーカーです。足を骨折して松葉杖の職人さんが、木靴作りの実演をしてくれました。特別な機械で、あっという間に見事に作り上げました。靴の中をくりぬく作業も見事です。熟練した職人さんだからできる技だと思います。

何故、オランダで木靴が発達したのかということ・・・オランダは、ライン川下流の低湿地帯に位置し、国土の多くを干拓地で広げてきました。その為、土地がぬかるみやすく、その上を歩くには木靴が適していたからなんです。今でもわずかですが、木靴を使っている方もいるとのこと。

帰りには、「Durea 社」から、お土産に店名入りの木靴をいただきました。店で、試履きもできますよ!

